



## 退官のご挨拶

生体機能構造学講座・生体機能形態学分野 教授 阿部 和厚



みなさんお元気ですか。学生から教官と40数年すごした北大を退官してはや一ヶ月が過ぎました。

4月1日から北海道医療大学心理科学部に席を置いています。JRあいの里教育大駅から歩いて5分のところにあります。ふつう8時半ごろから夜9時半まで大学にいます。部屋は3階

の端で、新しい学部ということで、出来立てのホヤホヤです。引越しに1ヶ月かかりました。4月の毎土日には北大にでかけて必要なものをダンボールにつめ、週日の夜に運んでいただき、5月の連休までかかりました。本棚はかなり雑多な種類の本では満杯です。この学部に相応しい新しい分野を起こそうかと夢想しています。

窓から西南の方には、札幌連峰の山々がみえます。頂上の雪もようやく消えたようですね。北大もその方向。遠いですね。

北大にはずいぶんお世話になりました。何といってもわが青春時代。クラスの仲間、上級生や下級生とともにいろいろなことがありました。クラブはクラスの数人で絵画同好会をつくりました。デッサンのイーゼルから自前でつくるという実質的な時代でした。エルムの森も何度も絵にしました。山にも行きました。学祭の展示や市民の血圧測定。そして、同期がはじめた北大医学部新聞、フラテのお手伝い。ギターは、合唱団の歌の伴奏。その間、第三解剖学教室に入りして遊ばせてもらいました。

卒業してからは、解剖と外科。外科は大学院の副科目で、外科の初步と麻酔を教えていただき、10年近くは臨床にも関係しました。だが、卒後の青春はあの古い古い木造の研究室。夜中まで暗室にこもったり、ときには先輩と酒をくみかわしたり。高い天井を見上げると、ねずみが走っていました。

そして恩師の伊藤 隆先生の教えをうけているうちにこの教室をつぐことになりました。そして、医学部のカリキュラム改革、大学院改革とのめりこんでいるうちに、いつの間にか大学改革が専門のようにみられるようになりました。この10年は大学改革でしたね。とくにこの数年は北大の歩く広告塔といわれたりしました。鹿児島、長崎…、韓国、台湾、アメリカ、南アフリカ。数えると80回ほど教育改革に関する招待講演やFDの実施指導をしました。好奇心旺盛、これは勉強になるとすぐはまってしまうため、道をあやまつたかもしれません。だが、わき道にも踏み込んで、波乱の人生、苦しいけれど愉快でしたね。講座をこえて多くの人たちと知り合え、心を

ひらき、明日を語る。とくに医学部の若手教官、そして学生。こうしたいというと、よく反応していただけました。うれしいことでした。これが全学に及び、そして全国に及ぼしました。世界ものぞかせもらいました。

医学部での医学概論—学生がすすめる活発な授業、医学史の見事なパフォーマンス、医学テーマ演習、組織学模擬研究など。ずいぶん多くの大学でビデオやパワーポイントで紹介しました。度肝を抜かれるというインパクトがあったようです。国際シンポでも、絶賛をあげ、イギリスの高名な病理学者がさっそく帰って真似をしたいという反応で、かえって驚きました。医学部のFDも評判でした。こんなわけで、北大の名をあげるのに一役かいましたが、これもしっかり演じていただきました皆さんの方ということになります。

この5年ばかりで教師冥利につきるという幸せは、上に紹介した医学部の学生の授業のほかに、全学教育の科目、毎年の演習林、牧場、練習船などの1週間合宿研修でいろいろな学部の学生と友だちになったことです。背景がよろしい。演習林。2月の雨龍演習林でストーという裏にシールをはりつけたスキーで山を登る。本州出身が多い学生はころころこけて仲良くなる。牧場。学生は朝早くから牛や馬の糞もきれいにする掃除。そして乗馬。馬の調教で、丸馬場で逃げまわっていた馬がついには手綱なしで私の歩きにあわせてついて歩くようになったうれしさ。練習船でのイカ釣り。途中からは生きたイカをさばき役。すきとおる刺身。グネグネ動く足を口に入れて歓声をあげて食べる女子学生。拒否反応はだれもない。そして、ときどきのコンパに呼んでもらえ、この3月には退官パーティまでしてもらいました。感激でした。みなさん、全学の教育にも参加してくださいね。

何といっても夢のような出来事は学長選挙の候補におされ、皆さんに選挙運動をしていただいたことです。点検評議委員会で北大の現状を様々な面から解析し、そして北大のこれからの方を考えることを10年行ってきました。これらにかかる書類は膨大なものがあります。使った時間も相当です。トップでなかったため、仕事人として当にされ、毎年の年末から2月ほどまでは、それは大変で正月休みもないという状態でした。そして実際に教育改革では北大方式と全国に知られるようになつた多くの改革への戦略を実際のものとしてきました。そんなことで全学的に支援者も得られたものでした。本当にありがとうございました。夢でしたね。

現在は、心理科学部で解剖を教える役となっています。サイエンスの裏づけのある臨床心理士と言語聴覚士を育てるのが目的の学部で、全国で最初の学部ということです。医学部でなくてよかったなとも思っています。新しい世界はわくわくもの。文系的センスもまた楽し。かな

り確立した医学教育と異なり、カリキュラムも未熟です。解剖学の国家試験をみて仰天。鰐弓神経やこまかい胚葉まで問題にしている。全身の解剖学を80分15回で教えるように、そして発音や聴覚は医学部よりくわしく。無茶ですね。それなら相応しいカリキュラムをつくらなければと、音声学など言語聴覚関連の授業にでています。その世界の常識を仕入れようという魂胆です。学生と一緒に授業を受ける。面白いです。解剖では、実習もないのに、まずは模型をつくらせたり、発表をさせたり、インターネットで实物写真をみせたりの授業をしています。いい学生たちです。だが、まだ、大学での学び方がわか

らない一年生に、重い専門からは負担のようですね。

教育改革の仕事からは、逃れられないようで、FD委員会の委員長をするようにとのことです。問題が山づみですね。学外的には高等教育学会でありますし、大学基準協会で医学部の評価基準つくり、大学評価方法の手順作り、そしてメディア教育開発センターでFD研究会などがあります。昨日は、「医学教育とe-learning」という依頼原稿を中央の雑誌におくりました。

わが愛する医学部が気になります。エルムの梢を吹く風のように外から眺めることになります。健やかに、北大らしく、大きく発展することを願います。

## 退官にあたって

生殖・発達医学講座・婦人科学分野 教授 藤本 征一郎  
(現 医療法人社団カレス アライアンス 日鋼記念病院 院長)



昭和62年8月1日付で、産婦人科学講座担当を拝命し、平成14年3月31日に退任するまでの14年8ヵ月間は、私にとりましては、まさに「光陰矢の如し」でありました。診療と研究あるいは教育に、私なりにその時点では最善を尽くしたつもりではありましたが、今こうして退任後に振り返ってみるとその当時の自分が小さく見えてなりません。

教室・同門を挙げて一致団結した心意気だけが懐かしく思え、成し得た業績の形状は誠に小さく脆弱なものに見えてなりません。研究活動あるいは社会活動における私の企画・立案に真剣に取り組み、理解と協力とを惜しまなかつた多くの教室・医局員ならびに同門会員の方々、そして医学部、医学研究科、附属病院の関連の各位に心から感謝するのみであります。特に歴代の医学部長、医学研究科長そして附属病院長の皆様には、身に余るご高配とご高導を賜り、心底より御礼を申し上げます。

医学部78期生の謝恩会が2月18日(月)18時から札幌グランドホテルで開催されましたが、祝辞を述べる機会を与えられました。私は、市松人形のある職人にまつわる言い伝えを思わず口に出してしまいました。木屑を踏んで塗り固め、手足と腰だけが動くようにし、着物を着せて着せ替えをする市松人形の修理を頼まれた、東京の下町の人形職人の家業は江戸の後期から続いて3代目でございます。第二次世界大戦の戦禍の余燼が残り、人々の心のすんだ東京の昭和22~23年頃、仕事もありませんし、お酒を飲んだり、友達と悪さをしたり、時にはやっとできかかった人形職人の組合のことでお互いに悪口を言い合ったり、組合人事で人の足をひっぱつたり、すんだ気持ちでいたある職人のことであります。気品の高い老婦人が江戸時代に作製されたと思われる古い市松人形を持って、「修理をしていただきたい」と訪れてきました。人形の着ている着物もボロボロになっている状況でした。やっとお客様が来てくれたということで、その職人は喜んで仕事にとりかかりました。当然、衣服を着替えさせなければなりません。着物を剥いでいくうちに、その胴体にはんのりと紅色がついていること

を薄暗い電気の中で見ることができました。よく見るとやはり紅がついている。当然、着せ替え人形ですから、和服の下着、腰巻きもあります。腰巻きの紐には全く紅色がない。薄暗い電気のもとでよく見ると、やはりその塗り固められた人形の胴体に、ちょうど腰紐があたるあたりに紅色がうっすらとつけられていることを自覺致します。そこで日頃気持ちがす込んでいた職人も目が覚めます。

注文された人形の着物を新たに新調するわけですが、なんと大事に保存しておいた絹の布片を見つけてきて、絹の純白の腰巻きをあつらえたのでございます。それなりのしつらえをして立派に着せ替え修理を終えて、数日後に訪れたそのご婦人に人形をさりげなく手渡しました。人形を受け取りに来たご婦人は、修理の状況を見て大変満足したわけですが、後で自宅に帰ってから、自分の子供の時から大事にしていたこの着せ替え人形の下着に絹を使ってくれたということを電話をして、心から感謝したそうです。恐らくその人形がその後、どんな職人によってどのように修理されたか、あるいはされていくかはわかりません。しかし、江戸末期の所在の人形職人が紅を肌にさしたということ、それを見て戦後の非常に貧しい時に、その3代目の職人が絹布を使って下着を取り替えたということ、この話は我々の医学研究と医療の中にもきっとどこかで生きる、いや、これからも活かしていくなければならない話になるのではないかと思われます。

わが国の大学は、明治時代の帝国大学の設置、第二次大戦後の教育制度の変更、そして、現在の行財政改革の渦流の中にあって、いわば第三の改革を現在迎えております。ほぼ50年毎の周期で大きな改革を迎えております。

わが国の医学・医療は、今大きな改革の時代にあり、遠い将来を展望しつつも、より近い将来の計画を適正に策定し、実行し、改革を着実に結実させていくことが重要である、と認識されます。

医学研究科と附属病院の21世紀への飛躍のために、教育・研究機関にふさわしく、「人間」に優しい医療と高質かつ高度の医学と「社会」に提供する努力を継続しながら、前進的な意識改革のもとに透明な「運営」と健全な「経営」とが医学研究科と附属病院の教職員の皆様により実施していくことを祈念して、退任の言葉とさせていただきます。

(平成14年4月23日 記)

## 長い間お世話になりました。北大退官にあたって。

遺伝子病制御研究所 副所長 病態研究部門・癌病態分野 教授 細川 眞澄男



去る3月31日をもって、北海道大学を定年退職しました。最後は遺伝子病制御研究所でしたが、医学研究科のメンバーでもありましたし、私の研究生活の大部分は医学研究科・医学部でしたので、医学研究科の皆様には大変お世話になりました。昭和33年に医学進学課程に入学してから、40年以上の間、市立札幌病院でのインターンの1年間

と助手に採用されてから2年間アメリカで留学生活を過ごした以外はずっと北大医学部にお世話になったことになります。小学校、中学校を通じて、偉人の伝記を読み、医師になることを夢見ていました。自分では北大はクラーク博士の大学程度の知識しかなかった北大を選んだのは、父親の勧めもあったからです。その父は何も言いませんでしたが、大学を卒業したら東京に帰ることを期待していただろうと思います。私も、大学を卒業するまでは、どこでも良いから第一線の臨床医になると考えていました。それが、母校の教官としてがんの研究をさせてもらうことになったきっかけは、恩師小林 博先生との出会いでした。小児科医を目指して、小児科学教室に入局し、はじめウイルス班に加えて頂き、実験のお手伝いもさせてもらいました。帯広での小児科医としての初期研修を修めて帰郷すると同時に、新しく組織された腫瘍班に配属になり、山田尚達教授から癌の基礎を学ぶことを勧められ、当時、教授に就任されて間もなかった小林先生の癌免疫病理研究施設（「癌免研」と呼ばれていました、病理部門だけでした）研究室で勉強することになりました。小林研究室では、小林先生をはじめとして多くの良き研究仲間と出会いました。小林先生の代表的研究であり、国際的研究である「癌細胞の異物化」の研究のお手伝いをさせてもらったことなど、夢中で実験しているうちに、がん研究の面白さに引かれ、結局は基礎研究を続けることになりました。その意味で、教授を拝命したのはそのときどきの成りゆきに身を任せてきた結果でした。決して小児科学に魅力がなかったわけではありません。小児科には今でも未練がありますし、親切に多くのことを教えてくれた小児科医局の先輩諸先生には感謝しています。特に初期研修のオーベンであった後藤三雄先

生や腫瘍班班長であった武田武夫先生には大変お世話になりました。

私は、癌の基礎研究をはじめた初心をそのまま押し通して、がん免疫を生涯の研究課題にして参りました。小林研究室でラットウイルス誘発腫瘍が同系ラットで免疫学的に自然退縮することを観察したことが、がんの免疫学的制御すなわちがん免疫療法の可能性を探求させる契機がありました。しかし、がん免疫療法は、最初考えたほど単純ではなく、多くの困難にぶつかりました。試験管内と生体内での免疫反応の違いや担癌生体に見られる免疫逃避機構などが研究課題になってきました。また、これら「癌の免疫学的制御の基礎的研究」を通して、がんと免疫との関係には2面性があり、生体反応がときに癌の増殖や浸潤・転移を促進すること、解析には試験管内での実験が必要であることは確かですが、最終的には生体内でのきめ細かい観察により確かめることの重要性を学びました。医学研究科の取りはからいで、阿部和厚教授、藤本征一郎教授と一緒に最終講義として、これらの研究の成果を紹介させてもらったことは誠に光栄でした。私は、これらの臨床的な研究テーマを通して、基礎研究者だけでなく多くの臨床の癌研究者と知り合うことができました。また、英語は下手ですが多くの国際会議にも参加し、国際的センスの重要性も学びました。

教授会のメンバーに加えて頂いてからは僅か10年余りでしたが、部局、大学の運営にも参画させてもらいました。その時には、「癌免研」は諸先輩の頑張りにより順調に発展し、癌研究施設に改組され、4部門でしたし、翌年さらに一部門増設され5部門になりました。その癌研究施設の運営が第一歩でした。助教授時代まではがん研究以外はなにも知らない自分で、医学部で最初に入試関係の仕事をさせてもらったのが縁で、医学部での最後3年間には全学の入学者選抜制度調査委員会の委員長も経験しました。教育面では、統合腫瘍学講義を独立した科目として担当させてもらいましたし、学位論文の掲載誌である北海道医学雑誌の編集委員長として微力ながら皆様のお役にたてたことを喜びています。北大名誉教授を拝命しましたが、薦めてくれる人があって、現在、北海道医科大学の看護福祉学部に勤務しています。これからも皆様にお世話になることがあるかと思います。今後ともよろしくお願いします。私は、自分を育てくれた北大医学研究科・医学部の益々の発展を心から祈っています。

## 評議員就任のご挨拶

生殖・発達医学講座・小児発達医学分野 教授 小林 邦彦



この度、医学研究科の教授会で北海道大学評議員として御推薦いただき、光榮に存じております。そもそも、大学の評議員とは何をするのが本務なのかも知らないで引き受けることになり（多分大方の研究科教授もそうでしょうが）、少々戸惑っています。一般的法人施設などには理事会があり、その審議事項などを、監査・評議し承認する

委員を評議員と称するので、それに近いものと推察しています。とすると、理事会に相当する大学の委員会は、総長、副学長を

中心にした審議機関である部局長会議と考えられます。部局長会議は大学の運営を左右する重大な議決機関なので、そこで審議された事項が北海道大学、ひいては各部局にとって有意義であるかどうかを再審議するのが評議会とすると、大変責任のある委員会といえます。評議員は各附属研究所と各部局から選出されており、総勢50～60名の大委員会ですが、それぞれの委員はその選出部局の利益代表者としての自覚で出席していると思われますので、一旦当該部局に関連する審議事項があると、結構もめる事がありそうです。ただ、不思議なのは、評議会には部局長会議のメンバーが全員入っていること、またその議長は部局長会議の議長でもある総長であることです。部局長会議の審議事項を審議する評議会にその審議事項を提出する側のメンバーが入るというのはどうも解せません。新米の評議員なの

でよく分からぬことが多いのですが、評議員2期目の吉木教授に尋ねてみたいところです。

これまで、評議会が2回行われ、一回目は北海道大学マスター プラン96の見直しの件で、結構もめました。96年時のプランでは余り目立たなかった北キャンパスへの道路アクセスの不便さが、問題となりました。この数年で、北キャンパスには可成りの建物が出来てきており、そこに入る部局や研究所が多くなるため、その不便さが露見したのが原因です。二回目は余り

discussionも無くすんなり終りましたが、必要なときには大いにdiscussionできる会議にしたいものです。なお、この評議会には、医学部関係として、西研究科長、加藤附属病院長のほか医学部評議員の吉木教授、小林の計4名がおり、それに遺制研の高田所長、医短の松野学長を加えると医系が計6名となりますので、ある程度の意見集団を組めます。こんな事を考えながらやっていこうと思っていますので、何かとご協力をお願いいたします。

## 先端科学技術共同研究センター長就任と評議員再任のご挨拶

病理解析学講座・分子病理学分野 教授 吉木 敬



平成14年4月1日付で先端科学技術共同研究センター長に就任しました。任期は2年です。長い名前のセンターですので、先端研と略して呼んでいます。英語では Center for Advanced Science and Technology (CAST), Hokkaido Universityです。先端研はその規程第2条に述べられている様に、北海道大学の共同教育研究施設として、基礎的・

学際的研究から応用、開発、実用に至る研究及びこれらの研究支援を通じ、北海道大学と産業界等との研究協力を推進するとともに、先端科学技術の創出と振興を図ることを目的として平成8年に設置されています。私はまだ建物も出来ていなかった頃から先端研の運営委員をしてきた事や先端研のレンタル・ラボでの産学連携プロジェクト研究の成果から国立大学教官の兼業第1号としてバイオベンチャー企業を立ち上げた事などが理由で、センター運営委員会のご推薦を受け、総長からセンター長の指名をうけたものと思います。初代センター長嘉数信昇教授（現大型計算機センター長）による基礎作り、2代目センター長富田房男農学研究科教授（前副学長）による実験生物センター、遺伝子実験施設、理学部付属動物染色体研究施設と先端研との統合を経て、当初2名の専任教官が現在では教授（2）、助教授（5）、助手（4）、技官（3）の体制になっています。組織

図としてはセンター長の下に副センター長、研究組織としてプロジェクト研究領域、ニーズ育成研究領域、研究支援室が置かれています。先端研の大きな特徴的機能として産学官リエゾンを行いうりエゾン・オフィス（Liaison Office）があります。リエゾン・オフィスは産学官連携の北海道大学の公的な総合窓口であり、企業ニーズ調査とデータ・ベース構築、企業ニーズの学内への提供、学内研究成果と企業ニーズのマッチング、民間企業との共同研究のマッチングとレンタル・ラボの提供、北海道TLO（株）、コラボほっかいどう、研究成果活用プラザ北海道、国公設研究機関、経済団体、金融機関、ベンチャー・キャピタルと北海道大学との連携の強化、高度技術研修・セミナー・シンポジウムの開催、技術相談など多彩な活動をしています。私共の（株）ジェネティックラボ設立から後、医学研究科・遺伝子病院研究所の教官によって、（株）ジーンテクノサイエンス、（株）メディカルイメージラボが次々と設立されています。医学研究科の各位にも自己の研究成果を企業化するといったイメージでその価値を見直してみるのも、大学の社会貢献のひとつのかたちとして意味のある事だと思います。その様な折には先端研を大いに利用して欲しいと思います。最後になりましたが、医学研究科教授会で北海道大学評議員に再任されました。4月1日から2年の任期です。2年後の大学法人化を視野に入れ、北海道大学、医学研究科が大きく発展する様に微力ながら力を尽くしたいと思っております。宜しくご支援の程御願い致します。

## 平成13年度医局対抗サッカー大会

大学院医学研究科平成13年度修了 榊原聰

年々サッカーライフが高まる中、毎年恒例の医局対抗サッカー大会が昨年度も行われました。平成13年9月22・23・24日に4グループに分かれて1次リーグ、10月28日に決勝トーナメントが、それぞれ西区八軒の農試公園ツインキャップで行われました。第5回を迎えた昨年は、一昨年度と同じく14チームの参加となりました。1次リーグ（2位以上が準々決勝進出）を勝ち抜いたチームによる準々決勝は若い基礎系合同チーム対強豪第二外科、前回ベスト8の精神科対前回3位の循環器内科、二連覇を目指す第一外科対優勝候補の整形外科、古豪第一内科対前回旋風を巻き起こした泌尿器科、という組み合わせでした。準々決勝は4試合中2試合がPK戦となる接戦でした。基礎系合同チームは疲れの見える第二外科に快勝。精神科は循環器内科に競り勝って一昨年度の雪辱を晴らしました。GKの好セーブが印象的な泌尿器科は第一内科をPK戦で振り切りました。第一外科は整形外科の挑戦を一昨年に引き続き退け、準決勝に勝ち進みました。準決勝は基礎系合同対精神科、泌尿器科対第一外科の対戦となり、決勝は前回優勝の第一外科対第3回優勝の精

神科の対決となりました。試合は序盤接戦でしたが、後半は意外にも精神科の一方的な展開となり、6-0で精神科が2度目の優勝を飾り、大会の幕を閉じました。

昨年度の大会は、各チームの実力が拮抗してきており、好ゲームの連続という印象でした。今年以降もたくさんのチームが参加し、大会を盛り上げてくれることを期待しております。



## お知らせ

### ◆ 医学部学位記伝達式行われる ◆

平成14年3月25日（月）10時から本学体育館において、大学としての学位記授与式が挙行されました。これに引き続き、13時から本学部臨床大講堂において、学位記伝達式が行われました。

本学部の教官および父母等の見守る中で、長嶋教務主

任より卒業生110名の名前が呼び上げられ、西学部長から、ひとりひとりに学位記が手渡されました。

学部長のお祝いのことばに引き続き、田邊達三同窓会長より祝辞をいただいた後、第78期卒業生を代表して、鈴木聰さんが答辞を読み上げました。

### ◆ 平成14年度大学院入学状況（博士課程・修士課程） ◆

平成14年度の医学研究科博士課程入学者数は、社会人入学8名を含め94名（男78名、女16名）でした。

専攻別の内訳は下表のとおりです。

専攻区分	定員	入学者数（うち留学生）
生態機能学	20	4 (0)
病態制御学	30	44 (4)
高次診断治療学	24	12 (0)
癌医学	12	21 (3)
脳科学	14	7 (0)
社会医学	10	6 (0)
小計	110	94 (7)

医科学専攻修士課程入学者は、20名（男10名、女10名）でした。

医科学研究科では初めての修士課程で、平成14年4月9日（火）に入学試験が実施され、4月12日（金）に合格発表、4月17日（水）から4月19日（金）までに入学手続きを行い、4月25日（木）に入学ガイダンスを行いました。

また、平成15年度の募集要項は、6月上旬には医学部ホームページにより、又6月中旬には、印刷公表される予定です。募集要項の請求は、6月中旬以降に医学研究科・医学部教務掛あてに行ってください。

なお、試験日程は、次のとおりです。

- ・入学資格審査申請期間：7月8日（月）～12日（金）  
(学士の資格のない者で受験を希望する場合は、事前に出願資格について審査を受ける必要があります。)
- ・入学願書受付期間：8月5日（月）～9日（金）  
午後5時まで
- ・入学試験日：9月9日（月）
- ・合格者の発表：9月20日（金）

### ◆ 平成14年度医学部学士編入学状況 ◆

学士編入学試験は平成14年度入学者から初めて実施され、3次に亘る選抜試験の結果5名が合格しました。

選抜方法は、第一次試験で書類選考、第二次試験で筆記試験「生命科学総合問題」、及び第三次試験では課題論文試験と面接試験が課せられました。

#### 受験状況

志願者：238名（倍率47.6倍）

第一次選抜合格者：101名

第二次選抜合格者：26名

最終選抜合格者：5名

#### 合格者の出身大学内訳

国立大学（学部卒：2名）

私立大学（学部卒：1名、修士修了：1名）

外国大学（修士修了：1名）

### ◆ 平成14年度医学部入学者状況 ◆

平成14年4月8日（月）本学の入学式に引き続き、13時30分から医学部入学式が行われました。

今年度の入学者は97名で、前期日程定員80名に対し460名が受験（倍率5.8倍）し、後期日程定員15名に対し376名が受験（倍率25.1倍）しました。（他、外国人留学

生2名が入学。）

入学者のうち道内高校出身者数、平成13年度高校卒業者（現役）数および女子学生数の過去5年間の内訳は以下のとおりです。

<入学年度>	14年度	13年度	12年度	11年度	10年度
道内高校出身者数	34	31	39	38	34
13年度高校卒業者数	37	28	35	40	22
女子学生数	24（内留学生1）	15	19	26	21

## ◆ 医師国家試験合格状況 ◆

第96回医師国家試験の合格発表は、既に行われていますが、今回の本学部の合格状況は右表のとおりです。

なお、全国立大学の合格率は92.1%、全受験者に対する合格率は、90.4%と発表されています。

	受験者数	合格者数	合格率
新規卒業者	110名	105名	95.5%
既 卒 者	8名	5名	62.5%
合 計	118名	110名	93.2%

## ◆ 新入生合宿研修について ◆

本年度の新入生合宿研修は、4月13日（土）、14日（日）の1泊2日の日程で行われました。

この企画は、2年生の新入生歓迎実行委員会が主体となって実施されるもので、学生による学生生活のアドバ

イス等の研修も含まれています。

恒例により、土曜日の夜には上級生がクラブ活動の紹介（勧誘）のため研修所を訪れ、新入生との歓談が行われました。

## ◆ 共用試験CBTトライアル行われる ◆

平成17年度から正規に導入する予定の「臨床実習開始前の学生評価のための共用試験」のうちCBT（Computer-based testing）の試行（トライアル）が、去る5月10日及び17日の両日で実施されました。

5年生の20名がこのトライアルに挑戦し、真剣な表情でコンピューターに向かい100問（2時間）の解答に取り組みました。



## ◆ 平成15年度学士編入学について ◆

平成15年4月学士編入学のための学生募集要項を配布しております。

請求する封筒の表に「医学部学士編入学学生募集要項請求」と朱書きのうえ、角2型封筒に宛先を明記し、200円分の切手を貼付した返信用封筒を同封し、下記あて請求して下さい。

出願期間は平成14年7月8日（月）～7月12日（金）（午後5時必着）で、選考方法は、第一次選抜で筆記試

験「生命科学総合問題」、および第二次選抜で課題論文試験と面接試験が課せられます。

最終合格発表は、平成14年9月6日（金）です。

学生募集要項請求先：

〒060-8638 札幌市北区北15条西7丁目  
北海道大学医学部教務掛 電話番号（011）706-5005

## ◆ 構内交通規制について ◆

中央道路の歩行者・自転車優先道路化に向け施設・環境委員会構内交通専門委員会では、キャンパス交通動線計画の部分実施について検討の結果、最終的な形態を見据えながら段階的に実施することとし、第一段階として平成14年3月11日（月）から交通動線の変更により医学部（北18条以南の部局等）は、正門または北13条門を利用することになりましたので、現在北18条門は、通行できません（許可車両を除く）。

第二段階として医系ブロック（医学部、医学部附属病院、遺伝子病制御研究所）の車両は北15条門から出入構（北15条門を拡幅し、ゲートにより規制する）し、医病外来患者・見舞客・商用車等は北14条門から出入構する実施計画がありますが、この計画について施設・環境委員会構内交通専門委員会では、各部局等からの問題点・意見等を検討したところ現状にそぐわないとの意見もありキャンパスマスター・プランの見直しを含め、討論が続いている第二段階の実施計画は流動的です。

## ◆ 第21回 高桑栄松奨学基金授与式行われる ◆

1月16日開催の高桑栄松奨学基金選考委員会で決定された第21回高桑栄松奨学基金各種助成金対象者に対する授与式が、3月5日（火）研究科長室において挙行されました。

若手研究者に対する奨励賞は、5名の応募者のなかから脳科学専攻の博士課程大学院生新野正明さんと社会医学専攻の博士課程大学院生西谷千明さんに、外国人留学生に対する助成対象は、脳神経外科分野の外国人客員研

究員李章輔さんに、医学部6年生に対する奨学金は、総代の鈴木聰さんになりました。

授与式当日は、長嶋教務主任の司会進行により、基金の創始者である高桑名誉教授ご臨席のもと、西研究科長から4名の授与者に対し、賞状と助成金が授与されました。

授与式の後、第3会議室において、高桑名誉教授、被授与者及び各教官参加による昼食懇談会が行われました。

## ◆ 平成13年度 財団法人からの各種助成採択状況 ◆

(単位：千円)

財 团 法 人 名	種 別	件 数	交 付 額
(財)北海道科学技術総合振興センター	研究開発支援事業	1	1,000
(財)金原一郎記念医学医療振興財団	研究助成	1	400
(財)母子健康協会	研究助成	1	1,100
(財)寿原記念財団	研究助成	1	2,000
(財)大和証券ヘルス財団	研究助成	1	1,000
(財)上原記念生命科学財団	研究助成	2	10,000
〃	海外留学	1	2,600
(財)中富健康科学振興財団	研究助成	1	1,000
(財)がん集学的治療研究財団	研究助成	1	1,000
(財)北海道老年医学研究協会	研究助成	2	800
(財)武田科学振興財団	研究助成	1	2,000
(財)持田記念医学薬学振興財団	研究助成	2	2,000
(財)飯島記念食品科学振興財団	研究助成	1	1,700
(財)北海道大学クラーク記念財団	研究助成	1	500
〃	海外派遣	1	200

※ 財団等から研究科長へ通知があった分のみ掲載

## ◆ 学会日程等 ◆

\*学会名 ①担当分野、②開催年月日、③開催場所、④トピックや目的

\*第66回日本循環器学会・学術集会

①循環病態学講座 循環病態内科学分野 ②2002年4月24日（水）～26日（金）  
③北海道厚生年金会館、ロイトン札幌、札幌市教育文化会館、札幌プリンスホテル・国際館バミール、  
札幌後楽園ホテル ④「ポストゲノムの循環器学の展望と社会への貢献」

美甘レクチャー：米国のValentin Fuster先生に動脈硬化と血栓のお話ををお願いしました。

真下記念講演では東京女子医科大学の岡野 光夫教授が心筋の再生についてお話しされます。

国際交流企画：AHA、ACC、ISCP、ESCとのジョイント・シンポジウム

特別講演：Jay N. Cohn、Edward D. Frohlich、David G. Harrison、多田 道彦、Jamil A. Tajikの先生に21世紀の循環器学を展望していただきます。

学会全容はホームページ <http://www.convention.co.jp/circ66/> をご覧下さい。

\*第43回日本神経学会総会

①神経病態学講座 神経内科学分野 ②2002年5月29日（水）～31日（金）  
③ロイトン札幌、北海道厚生年金会館 ④「北の大地からのメッセージ～過去と未来の調和を求めて～」

日本神経学会は会員8,300名を有し、札幌での総会は第7回諏訪 望会長、第25回都留美都雄会長に続き、18年ぶり3回目の開催となります。特別講演1、招待講演1、教育講演9、シンポジウム9、ランチョンセミナー9、イブニングセミナー3、サテライトシンポジウム3、一般演題1,200題で約3,500の出席を見込んでいます。詳細は北大医学部ホームページよりアクセス出来ますので御高覧下さい。

#### \*第11回日本臨床環境医学会総会

- ①機能回復医学講座 リハビリテーション医学分野 ②2002年7月5日（金）～6日（土）  
③北海道大学学術交流会館 ④ヒトと環境のかかわり方について検討する。

#### \*リハビリテーション・ケア 合同研究大会・札幌2002（第6回全国リハビリテーション医療研究大会・第24回全国地域リハビリテーション研究会・第47回北海道リハビリテーション学会）

- ①機能回復医学講座 リハビリテーション医学分野 ②2002年9月6日（金）～7日（土） ③かでる2.7  
④ノーマライゼーションと自立を目指した地域リハビリテーション -21世紀の展開-

#### \*第30回日本救急医学会総会・学術集会

- ①侵襲制御医学講座 侵襲制御医学分野 ②2002年10月9日（水）～11日（金） ③ロイトン札幌  
④“救急医学30年の歩み”～検証と展望～  
【特別講演】「宇宙から見た危機管理」毛利 衛（日本科学未来館館長）  
【招請講演】1) Advances in Neuroprotection Research David S. Warner (Duke University)  
2) Mechanisms of Sudden Cardiac Death Roberto Levi (Cornell University)  
3) A Role of Activated Protein C in SIRS, Sepsis, and MODS Marcel Levi (University of Amsterdam)

#### \*第36回日本側弯症学会

- ①機能回復医学講座 運動器再建医学分野 ②2002年11月14, 15日（木、金）  
③ホテル ロイトン札幌

本学会は脊柱側弯症をはじめ脊柱変形全般の診断・治療の進歩を目的とした学会です。過去、北海道大学整形外科の松野誠夫教授が昭和48年、同金田清志助教授が昭和59年に主催しており、札幌での開催は3度目になります。このたびの学術集会では、主題に『脊柱矢状面の配列異常』を取り上げます。また、4名の海外からguest speakerの講演を予定しています。

#### \*第30回日本集中治療医学会総会

- ①侵襲制御医学講座 侵襲制御医学分野 ②2003年2月4日（火）～6日（木）  
③ロイトン札幌・北海道厚生年金会館 ④21世紀の課題 一プロを育てるー  
【特別講演】「21世紀の課題：「プロ」を育てる」 黒川 清（東海大学医学部長）  
「21世紀 クリティカルケアの実践・研究がめざす方向」  
井上智子（東京医科歯科大学大学院先端侵襲制御緩和ケア）  
藤堂 省（北海道大学大学院医学研究科外科学）  
西村正治（北海道大学医学研究科分子病態制御学）  
金森 修（東京大学大学院教育学研究科）  
相川直樹（慶應義塾大学医学部救急医学）  
【学術講演】1) 「肝移植の現況と展望」  
2) 「集中治療に必要な呼吸生理と病態」  
3) 「集中治療と生命倫理」  
4) 「SIRSとsepsisにおけるサイトカインの役割」

#### \*第11回日本総合診療医学会

- ①医学部附属病院総合診療部 ②2003年3月1, 2日（土、日） ③北海道大学学術交流会館  
④地域医療のニューフロンティア育成

## — Home Page のご案内 —

### 編集後記

広報の発行が始まって早4年がたちました。この間に編集委員の多くが入れ替り、掲載内容もしだいに変化してきています。これまでには教授や役職への就任や退任の挨拶が誌面の多くを占めていましたが、最近は、大学の透明性や情報公開によりいっそう貢献すべく、様々な試みがなされています。14号では、大学の技術や研究成果の社会への還元を目的とした国立大学教官研究成果活用企業を紹介しました。15号では、医学研究科で主催された全国学会ならびに国際学会一覧を掲載しました。さらに本16号では、研究助成金採択状況一覧や、学会日程等一覧を掲載しています。

(佐藤松治)

### 医学部広報は

<http://www.med.hokudai.ac.jp/medonly/ko-ho/index.html>  
でご覧いただけます。また、ご意見・ご希望などの受け付け電子メールアドレスは、  
[ko-ho-office@med.hokudai.ac.jp](mailto:ko-ho-office@med.hokudai.ac.jp)  
となっております。どうぞご利用ください。

### 北海道大学大学院医学研究科／医学部

**発 行** 北海道大学医学研究科広報編集委員会  
060-8638 札幌市北区北15条西7丁目  
**連絡先** 医学部庶務掛 電話 011-706-5003  
**編集委員** 有川 二郎、岩崎 喜信、田中 淳司  
小橋 元、佐藤 松治